

# 『古都なら』で日本の文化の再発見

## 1. はじめに

奈良市は長い歴史と、豊かな自然に包まれ、春日山原始林を始めとする8つの資産群を有する世界遺産都市です。シルクロードの東の終着点として、年間を通して新旧の行事でもてなす、国内外から多くの観光客が訪れる街でもあります。

しかしその一方で、奈良は産業や雇用が比較的少ない地域であるのも事実です。

地域の活力を再生させるには、地域に住む人々が自らの地域に希望を持ち、個性豊かで潤いのある生活を送ることができる地域社会を形成しなければならないところであり、地域経済の活性化を目指してこれからの地方創生に取り組んでいるところです。

## 2. 新たな交通ネットワークの整備

奈良盆地の最北端に位置する奈良市は、京都と和歌山の道路交通軸を強化するとして国が進めている京奈和自動車道の早期完成を望んでいます。

特に四つ世界遺産が集積している京都、奈良、和歌山間の移動時間短縮により、奈良市のさらなる観光産業の増大と地域活性化が期待されます。

現在、関西文化学術研究都市で位置づけされている「ならやま研究パーク」では、ハウスメーカー研究施設、機械器具製造業等8社が稼動しており、開通区間が延伸することで、より一層の企業立地推進や事業高度化に伴う設備投資などの民需拡大が期待されます。

奈良市の北西部は、大阪京都を通勤圏とする就労者のための環境の良いベッドタウンとして、今

まで急速に発展してきました。

平成18年3月には大阪と関西文化学術研究都市との鉄道利便を図る目的で近鉄けいはんな線が学研奈良登美ヶ丘駅まで延伸され、それに伴う大型住環境開発が進み、良好な街並みの更新がなされています。

また大阪・京都への鉄道結節点となる近鉄大和西大寺駅周辺は、南地区30ヘクタールの区域で土地区画整理事業を実施中で、北地区の駅前広場等整備とともに早期の街づくりの完成を目指しています。

一方、JR奈良駅周辺の旧市街は奈良の観光の玄関口として、三条通りを経て奈良公園や東大寺、興福寺、春日大社などの社寺への起点として昔ながらに発展してまいりました。

しかし長年、鉄道が地域を分断し、均衡のとれた都市の発展を阻害し、踏切による交通渋滞を引き起こしてきたことから、今までに駅周辺区画整理事業を実施し、平成14年からはJR奈良駅付近連続立体交差事業を進め、周辺街路整備を含めて平成22年に一部の区間を高架にし、鉄道による中心市街の都市活動の障害をなくしました。

併せて、寺院様式の旧駅舎がある駅前広場から三条通り（(都) 三条線 延長約480m）を街路事業により拡幅整備し、本年新しく再整備された東口駅前広場とともに新しい奈良の街並みの顔として観光客を迎えています。

さらに京奈和自動車道の（仮称）奈良インターチェンジが将来、奈良市南部に設置されるのに加えて、JR関西本線の奈良・郡山駅間の一部高架化、

奈良市長 なか がわ 仲川 げん



インターチェンジに隣接した新駅を作る構想が検討されています。

この計画により市中心部と薬師寺、唐招提寺がある西の京地区や法隆寺（斑鳩町）などへの今まで脆弱と指摘されていた観光ルートの問題解決策になるとともに、地域への経済波及効果が期待されます。

### 3. 観光資源のフル活用

年間1,400万人もの観光客が訪れる奈良市は、さらなる国内外からの誘客数を増やそうとしています。

ひとつは従来の人気観光地の他に「ならまち」という江戸時代後期の街並みが残るエリアのテコ入れに取り組んでいます。

今年は、にぎわいの創設を目指して、従来の町家公共施設に加えて「奈良町にぎわいの家」のオープンや新しいコンセプトで「奈良町南観光案内所」を開設しようとしています。

町家の街並み保存の一助として、都市景観形成地区保存整備事業と町家建物内部改修モデル事業の両事業で建物の外と内の改修に充当できる補助金を交付しています。

また猿沢池周辺の夜の観光を身近に体感してもらうイベントとして、「ならまちナイトカルチャー」と銘打ち、花街の舞や能、狂言、落語などの鑑賞を定期的で開催し、じっくりと味わい深く奈良の魅力に親しんでいただいています。

次に、奈良市独自の取組みとして平成26年より珠光茶会と銘打ったお茶会を開催しています。

「わび茶の祖」といわれる村田珠光が奈良出身ということから企画されたものです。

珠光茶会には高い精神性と独特の美学を伴う文化・伝統の振興という目的のほか、地域経済を活性化させるマーケティング戦略があります。奈良県の荒茶生産量は、全国第7位で、うち約7割が奈良市で生産されています。生産農家の高齢化に伴う後継者不足の問題解決とともに、東部地区の中山間地で冷涼な気候を生かして生産される「大和茶」の認知度向上を図ろうとしています。

他には、いちごを始めとする奈良市固有の農産物のプレミアムブランド化や農村体験など着地型観光メニュー開発にも取り組み、より多くの方に奥深い奈良の魅力を引き出してもらおうとしています。

### 4. おわりに

奈良市はリニア中央新幹線のいまだ決定されていない名古屋－大阪間の中間駅誘致に取り組んでいます。

日本で最も古い街を最先端のリニアがつなぐ2045年の「リニア中央新幹線・奈良市駅」の実現を目指します。

奈良は、まだまだ多くの観光ポテンシャルを有しています。奈良は他の文化のいいところ取りをして国を造ってきたような街です。

実際に来て、日本で最初の街の成り立ちを知ってもらえれば、日本の文化を再発見でき、そして奈良ファンになっていただければこの上ない幸せです。